

覚えておくと世界が変わる ミクソリディアンスケール、短期マスターコース vol.02

どうも、大沼です。

引き続き、『ドミナント7th(X7)コード』と、そのドミナント7thコードの基礎となっている、『ミクソリディアンスケール』について学んでいきましょう。

前回は6弦トニックの方を確認したので、今回は5弦トニックのスケールやコードヴォイシングを見てください。

まずは基本的なコードヴォイシングから見ていきましょう。

譜例1、A7、5弦ルート、重要ヴォイシング

※5弦のルート音省略系

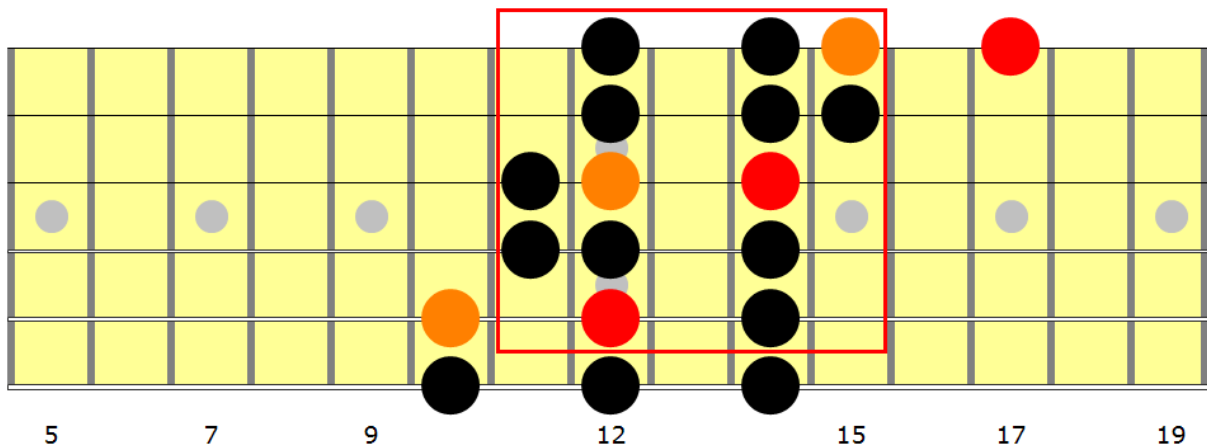
T	12	0	10人	12小
A	14	2	12小	10人
B	12	0	11中	12薬
	14	2	12薬	11中
	12	0	12薬	11中

5弦ルートでX7のコードを弾くとき、まずはこの辺りがパツと出てくると良いですね。

続いて、5弦にトニックを見た、ミクソリディアンの基本的なブロックポジションです。

図1、Aミクソリディアンスケール、5弦トニック重要ポジション

(※以下、全ての指板図でトニックを赤丸、ミクソリディアンの特徴音であるm7thを黄丸で表記しています)



スケールのインターバルは前回載せたように、**tonic**、**M2nd**、**M3rd**、**P4th**、**P5th**、**M6th**、**m7th** となっていますね。

赤枠のポジションに慣れてきたら、その近辺(赤枠外)にある、トニックや特徴音(ミクソリディアンはm7th)もついでに覚えておきましょう。

ちなみに、このポジションの弾き方は以下の様なものが基本になるかと思います。6弦トニックの時と同じく、2～1弦上を弾く時、左手が1フレット分ボディ側にズレる感覚を掴んでください。

譜例2、Aミクソリディアンスケール、5弦トニック重要ポジション、演奏例

The musical score consists of two systems. The first system starts at fret 3 and ends at fret 4. The second system starts at fret 5 and ends at fret 7. The tablature shows fret numbers and fingerings for each note. The notes are: 3 (1), 4 (2), 5 (3), 6 (4), 7 (1), 8 (2), 9 (3), 10 (4), 11 (1), 12 (2), 13 (3), 14 (4), 15 (1), 16 (2), 17 (3), 18 (4), 19 (1), 20 (2), 21 (3), 22 (4).

(※練習として1弦17フレットを弾くかどうかは自由です。基本的に下降も同じ指使いで弾きます)

次は3npsのポジションです。

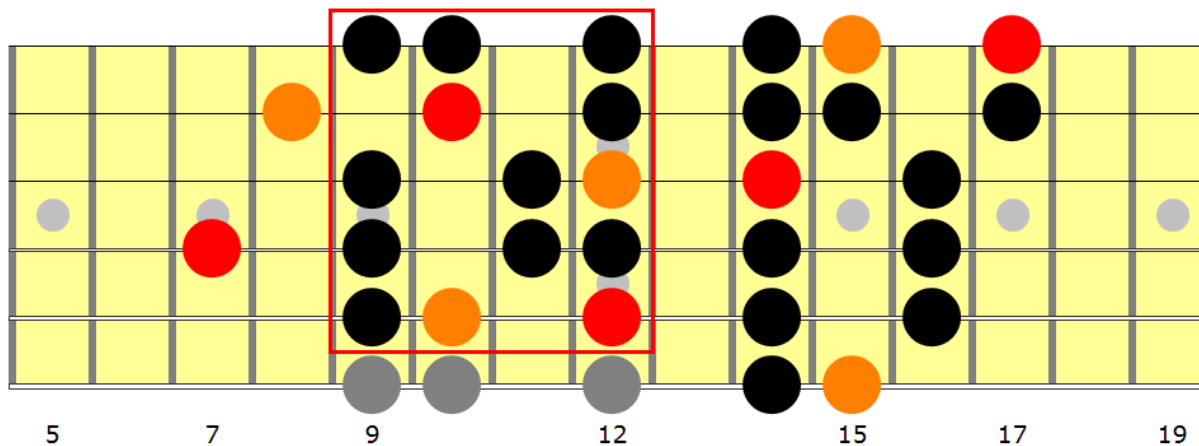
図2、Aミクソリディアンスケール、3nps、5弦トニック重要ポジション

The diagram shows the fretboard from fret 5 to 19. A red box highlights the 3nps positions from fret 12 to 17. The notes are: 12 (1), 13 (2), 14 (3), 15 (4), 16 (1), 17 (2), 18 (3), 19 (4).

こちらも赤枠内を基本に、慣れてきたらその外側にある構成音も把握していきましょう。

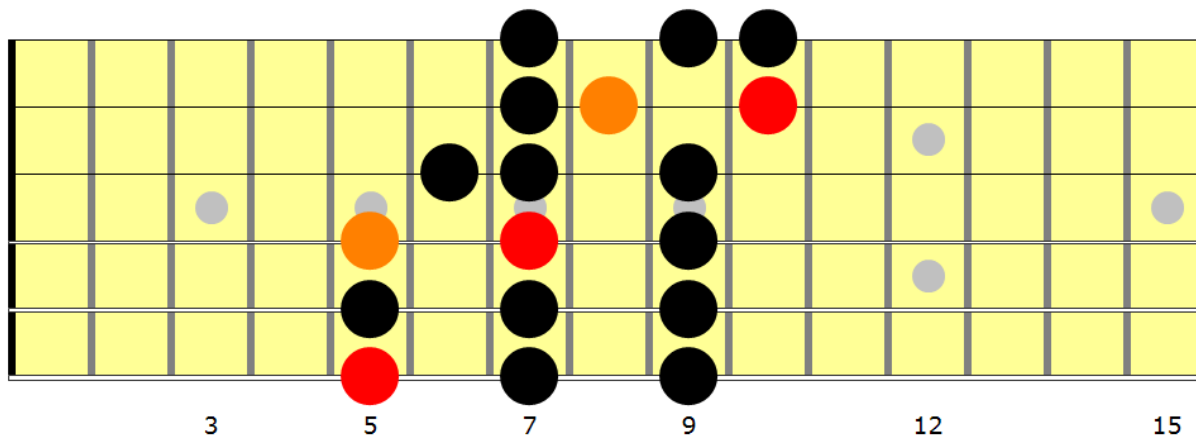
6弦トニックの時と同じく、ヘッド側に展開する方も覚えていきます。

図3、F#フリジアンスケール(=Aミクソリディアンスケール)、5弦トニック重要ポジション



この方向に展開すると、前回の6弦トニックで弾いたポジションとも重なり始めます。

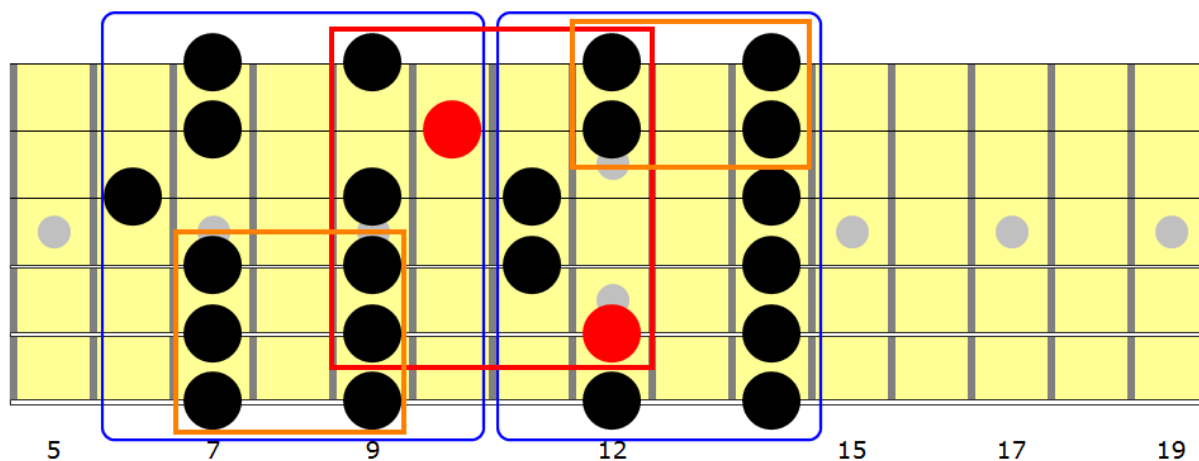
図4、Aミクソリディアンスケール、3nps、6弦トニック重要ポジション
(※指板図のスタートとなるフレット数が変わっているので注意してください)



慣れてきたら、両者を行ったり来たりする弾き方などを練習に取り入れても良いですね。

それでは最後に、ペンタ系のポジションを見ていきましょう。

図5、Aメジャーペンタトニックスケール、6弦トニック重要ポジション



この範囲に関しては、弾きやすさなどの面から、基本的には赤枠を中心に、黄枠部分が拡張されたように見えて良いでしょう。

青枠部を含めると、全部で3ポジション分になりますので、今回のミクソリディアンに限らず、ペンタの基本として全て覚えてしまいたいところです。

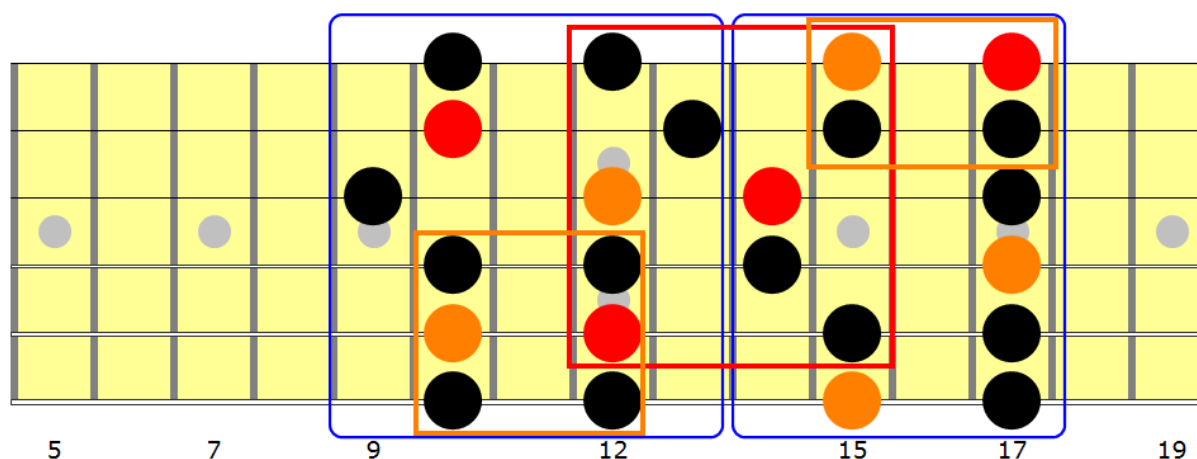
前回はそうでしたが、この図5の範囲は先に載せた、図1、図3のミクソリディアンのポジションと完全に重複します。(※部分的には図2のポジションとも重複する)

6弦ポジションで覚えたものがどうズレているのかも含め、それぞれインターバルを把握しながらじっくりと弾いてみましょう。

(※メジャーペンタは、7音構成のメジャー系ダイアトニックスケール(アイオニアン、リディアン、ミクソリディアン)から4度と7度が抜けた構造です)

続いて、マイナーペンタのポジションです。

図6、Aマイナーペンタトニックスケール、5弦トニック重要ポジション



表記している形そのものは図5と全く同じですが、スケール構造が変わっているため、インターバル的には大きく違います。

トニックを中心に据えて、よく音を聴きながら、メジャーorマイナーの響きを感じ取るように弾き比べてみてください。

それでは、【ミクソリディアンスケール短期マスターコースvol.02】は以上になります。

次回に続きます。

ありがとうございました！

大沼